

【 日 出 町 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校）

調査結果の分析

小学校：国語

※赤数字は全国の前答率を下回るもの

小学校 6年生 国 語	平均正答率	学習指導要領の領域等別平均正答率						評価の観点別平均正答率			問題形式		
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
		言葉の特徴や使い方に關する事項	情報の扱い方に關する事項	我が国の言語文化に關する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと						
全国	66.8	76.9	63.1	81.2	66.3	69.5	57.5	74.5	63.8		64.7	78.5	58.8
県	69.0	83.8	63.4	82.9	65.8	70.6	59.8	78.5	64.9		64.7	83.6	64.6
日出町	70.0	87.2	66.3	78.9	68.2	72.9	59.6	79.9	66.2		65.5	86.0	67.0

- 教科全体の平均正答率は、全国平均を3.2ポイント上回っている。
- 領域等別平均正答率で、領域別平均正答率「知識及び技能」の「我が国の言語文化に關する事項」が、全国の前答率を下回っていた。
- 「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」を出題の趣旨とする問題で、正答率が37.5%と低く、全国（40.8%）と比較しても低かった。
- 「事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかをみる」を出題の趣旨とする問題で、正答率が低かった。

小学校：算数

※赤数字は全国の前答率を下回るもの

小学校 6年生 算 数	平均正答率	学習指導要領の領域別平均正答率					評価の観点別平均正答率			問題形式		
		数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	58.0	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6	65.5	48.3		67.2	64.0	34.9
県	60.0	63.3	60.0	55.8	57.2	63.0	68.2	48.9		68.3	66.9	36.3
日出町	58.0	60.8	58.9	55.0	55.3	60.9	66.7	46.4		66.1	65.6	33.6

- 教科全体の平均正答率は、全国平均と同レベルの数値である。
- 領域別正答率では、「数と計算」「変化と関係」「データの活用」の領域で全国平均を2ポイント以上下回っていた。（分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題や、「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題で、課題が見られる。）
- 観点別では「知識・技能」は全国平均値を上回ったが、「思考・判断・表現」の分野で課題が見られる。記述式問題で課題が見られる。

小学校：理科

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

	平均正答率	学習指導要領の領域別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式		
小学校 6年生 理科	全体	エネルギー	粒子	生命	地球	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	57.1	46.7	51.4	52.0	66.7	55.3	58.7		54.7	69.7	45.2
県	60.0	51.8	52.7	55.1	69.2	59.0	60.7		56.6	73.7	50.8
日出町	62.0	52.5	54.7	57.5	70.6	60.7	62.3		58.3	76.3	49.8

- 教科全体の平均正答率は、全国平均を4.9ポイント上回っている。
- 領域別正答率・観点別正答率ともに、全ての領域で全国平均を上回った。
- 「氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる」を出題の趣旨とする問題で、正答率58.2%が全国（60.9%）と比較して低かった。
- 「レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる」を出題の趣旨とする問題で、正答率が低かった。

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校）

調査結果の分析

中学校：国語

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

	平均正答率	学習指導要領の領域等別平均正答率						評価の観点別平均正答率			問題形式		
		知識及び技能			思考力・判断力・表現力等								
中学校 3年生 国語	全体	言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い に関する事項	我が国の 言語文化に 関する事項	話すこと・ 聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	54.3	48.1			53.2	52.8	62.3	48.1	55.3		63.9	73.6	25.3
県	53.0	46.5			52.1	52.7	61.1	46.5	54.6		62.6	74.1	24.7
日出町	54.0	46.4			52.9	54.5	60.7	46.4	55.5		63.2	75.8	25.4

- 教科全体の平均正答率は、全国平均を0.3ポイント下回っている。
- 領域別平均正答率では、知識及び技能の「言葉の特徴や使い方にに関する事項」が全国平均を下回っている。
- 「文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる」を出題の趣旨とする問題では、正答率が12.8%（全国17.1%）、「自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる」を出題の趣旨とする問題では、正答率が70.4%（全国73.4%）と、全国と比較してやや低い。
- 「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる」問題では、正答率62.0%（全国57.3%）で、全国平均より特に高くなっている。
- 正答率が50%未満の生徒の割合は、31.2%（全国33.6%）で、全国と比較して低い。

中学校：数学

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

	平均正答率	学習指導要領の領域別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式		
中学校 3年生 数 学	全体	数と式	図形	関数	データの 活用	知識・技 能	思考・判 断・表現	主体的に 学習に取り 組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	48.3	43.5	46.5	48.2	58.6	54.4	39.1		54.0	52.0	39.6
県	45.0	39.9	42.0	45.3	55.6	51.2	34.8		49.4	48.9	35.9
日出町	50.0	43.0	48.9	51.4	62.3	55.2	42.4		51.4	54.0	43.9

- 教科全体の平均正答率は、全国平均を1.7ポイント上回っている。
- 領域別正答率では、「数と式」が全国平均を下回っている。
- 図形、関数、データの活用の領域で、全国平均を上回った。
- 数学的な表現を用いて説明する問題においては、無回答率の生徒が20%以上いた。全国や県の無回答率と比較すると、5～7%程度低い傾向にあり、回答をしようとしている傾向にはある。
- 正答率が50%未満の生徒の割合は、50.4%（全国54.2%）で、全国と比較して低い。

中学校：理科

※赤数字は全国の正答率を下回るもの

	平均IRT スコア	学習指導要領の領域別平均正答率				評価の観点別平均正答率			問題形式		
中学校 3年生 理 科	全体	エネルギー	粒子	生命	地球	知識・技 能	思考・判 断・表現	主体的に 学習に取り 組む態度	選択式	短答式	記述式
全国	503	56.1	61.7	44.8	37.3	66.8	38.8		56.9	44.9	39.3
県	501	54.0	60.8	48.2	36.2	66.5	38.3		57.2	41.1	37.4
日出町	521	59.2	65.6	47.8	36.8	68.4	42.2		58.5	52.4	43.4

※正答率欄の数値は、「予測正答率」を含んだ数値。「予測正答率」とは、日出町生徒に出題されなかった公開問題について、全国の解答状況に基づき、日井町各生徒と同程度のIRTスコアにおいて期待される正答率を指す。

- 教科全体の平均IRTスコアは、全国平均を18ポイント上回っている。
- 領域別正答率では、「地球」で全国平均を下回った。
- 観点別正答率では、「知識・技能」「思考・表現・判断」とともに、全国平均を上回った。
- 記述式問題の正答率においては、全国平均を4.1%上回った。

具体的な改善方法

□ 各教科の改善策

【国 語】

- 指導事項を明確にした授業を行う。また「前学年までの漢字の読み書き」（教科書）を大切に扱ったり、主語・述語・修飾語、故事成語等を定期的に振り返ったりする等、既習内容を振り返る場を意図的に設定する。
- 漢字のおもしろさ（成り立ち・部首含めて）や文法の意義等の指導を行うとともに、学習した言葉の力が生かせる場の設定をする。
- 文学的な文章や説明的な文章の特徴を押さえた指導を行う。また、複数の情報から、必要な情報を選び、条件に沿って表現する場を設定する。
- ・（文学的な文章）叙述や話の展開から登場人物の行動や心情等を捉える学習

- ・（説明的な文章）文章構成や段落相互の関係を捉え、内容の把握をする学習（学年に応じて）

【算数・数学】

- 各学年での基本的な学習内容の定着を図る。
- 基本的な問題を繰り返し練習し、問題を解く時間も意識させる。
- 数直線と分数の対応を理解させる。
- 計算のきまりの習熟と計算のきまりを使った問題作りなどをして定着を図る。
- 作図の技能だけでなく、垂直二等分線や角の二等分線の意味を理解させる。
- 空間図形とその展開図との関係を理解させる。
- 生徒の困りが、問われていることを理解していないのか、理解しているけど書き方がわからないのかを見取って、適切な指導を行っていく。

【理科】

- 低学年の生活科から実物とのふれあいや体験を積み重ねておく。
- 実験結果を一般化し、教師が身近な現象につなげる。
- 記述して答える力をつける。その際、2つの内容を入れるなどの記述も取り入れる。
- 計算問題や語句など基礎基本の小テスト等を実施、基礎的知識の定着を図る。
- レポートを書かせる際、実験装置を描かせたり、作図を描かせたり視覚でも確認する。また、プリント（問題集）等で繰り返し書かせる。
- 観察・実験する際、予想を立てさせ、理由を書かせ、発表させる。また、結果から考察させる。この一連の流れを意図的に設定する。

□ 学校全体で取り組む授業改善

- 各学校の「授業改善の5点セット」における検証指標をもとに検証を行い、成果と課題を明らかにしながらPDCAサイクルを機能させる。
- 学習の見通しを持たせ、学習に対する興味・関心・意欲を高める「めあて」、学びの成果を実感し、学習活動を自ら振り返り意味付ける効果的な「振り返り」、主体的な学びを生み出すとともに、「わかった」「できた」を実感させるような、子どもにとって追及する価値のある「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」の設定を確実に行う。
- 児童生徒一人一人のよい点や可能性を生かし、様々な人との対話・協働により、異なる考え方を組み合わせたり、よりよい考えを生み出したりする等、生徒指導の3機能を意識した問題解決的な授業を工夫する。
- 【言語能力】教科を問わず指導過程の中で、教科書を含む各種資料を適切に読み取れる工夫を行う。また、根拠や理由を明確にしながら自分の考えをまとめ、表現するといった対話的な学びの場を設け、話す・聞く、書く力を育成する。
- 【言語能力】自分の考えを広げたり、深めたりするために「目的」「状況」「場面」意識した交流の場を設定する。また、思考ツールや「言語活動育成ハンドブック」を活用し、各教科等における思考力・判断力・表現力を育成する。
- 全国学力・学習状況調査の結果の分析を確実にを行い、「授業アイディア例」等を積極的に活用する。

□ 確かな見取りと個に応じた指導の充実

- つきたい力を明確にし、「具体的な評価規準」や「評価基準」に基づく確かな見取りと「努力を要する状況」の児童生徒や特別な配慮を必要とする児童生徒への具体的な手立てを講じる。必要に応じて個別指導や補充学習を行う。

□ 町標準学力調査を活用する

- 12月末、小学校4年生～中学校2年生全員を対象に町標準学力調査（小学校は、国語・算数・理科、中学校は、国語・社会・数学・理科・英語）を実施し、結果を各学校の授業改善に生かす。
- 調査結果をもとに、各学校で1年間の指導の検証を行うとともに、年度末に向けての指導方針を明らかにし、次年度につなげる。

□ 家庭、地域との連携

- 規則正しい生活習慣づくりのため、「10（11）—7—1運動」「テレビやゲームは1日2時間以内」の推進を図る。
- 学校運営協議会等を通じて、学校の教育目標や児童生徒の課題とその解決について理解・協力を要請する。

【 日 出 町 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（児童生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

《学習習慣・授業等に関すること》

○教科の愛好度

国語 64.5%（全国比 +6.2%） 算数 60.0%（全国比 +2.1%）

理科 76.0%（全国比 -4.1%）

○「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の問いに、84.4%（全国80.3）が肯定的に答えている。

○「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の問いに、89.3%（全国83.4）が肯定的に答えている。

●「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の問いに、肯定的に答えている児童は80.9%で、全国平均に比べ、1.4ポイント低い。

●「国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか」の問いに、肯定的回答が72.9%で、全国平均より5.3ポイント低い。

●「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の問いに、「ほぼ毎日」「週3回以上」と答えている児童は55.3%で、全国平均よりも16.4ポイント低い。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

○「朝食を毎日食べていますか」に対して、86.3%（全国83.3%）が「毎日食べている」と答えている。

○「自分には、よいところがあると思いますか」の問いに肯定的に答えた児童は93.9%で、全国平均に比べ7.0ポイント高い。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の問いに、肯定的に答えている児童は94.6%で、全国平均に比べ、2.4ポイント高く、昨年度より10.2ポイント向上した。

●「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに、2時間以上と答えている児童は12.3%で、全国平均に比べ、9.2ポイント低い。

生徒質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

《学習習慣・授業等に関すること》

○教科の愛好度

国語 66.8%（全国比 +8.9%） 数学 51.2%（全国比 -2.6%）

理科 79.6%（全国比 +15.8%）

○「学校の授業時間以外に普段（月から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに、「2時間以上する」と答えた生徒は54.4%で、全国平均より23.6ポイント高い。

○「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに、「3時間以上する」と答えた生徒は44.4%で、全国平均より30.6ポイント高い。

○「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の問いに84.8%（全国70.6）が肯定的に答えている。

○「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の問いに、肯定的に答えている生徒は92.8%で、全国平均よりも8.1ポイント高い。

●「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の問い

に、「ほぼ毎日」「週3回以上」と答えている生徒は44.8%で、全国平均よりも31.7ポイント低い。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- 「朝食を毎日食べていますか。」に対し、85.6%の生徒が「食べている」と答え、全国平均とに比べ、6.9ポイント高い。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」の問いに、肯定的に答えた生徒は、71.6%で、全国平均より4.1ポイント高い。
- 「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに、肯定的に答えた生徒は、90.0%で、全国平均に比べ、3.9ポイント高く、昨年に比べ、10.8ポイント高い。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の問いに肯定的に答えた生徒は、68.4%で、全国より4.8ポイント低い。

2 日出町の児童生徒質問紙の調査結果をふまえて

《学習習慣・授業等に関すること》

- ・「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表する」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」「話し合う活動を通じて、考えを深めたり新たな考えに気づいたりする」など、主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られたことから、問題解決的な展開の工夫を充実させる必要がある。
- ・小・中学校ともに、「PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の問いに対する「ほぼ毎日」「週3回以上」回答の割合は、全国平均よりも低い。授業者が、身に付けさせたい力を明確にした上で、対話の目的や話し合いの必然性等、授業のねらいと指導の意図を明確にした対話的な学習を意識するとともに、授業の中で考えたことを発表する機会を取り入れる授業を行う際、自分の考えをまとめ、分かりやすく伝えるために、ICT機器を効果的に活用した伝えあいや表現の指導を充実させる取組が必要である。
- ・個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだと考えている児童生徒は、正答率が高い傾向が見られた。小・中学校ともに、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と考えている児童生徒の方が正答率も高い傾向がみられたことから、今後も生徒指導の3機能を意識し、具体的な評価基準に基づく確かな見とりを行い、一人一人の学習状況に応じた指導を行うことが大切である。
- ・算数・数学・理科において、教科の愛好度・有用性が高い方が、正答率も高い傾向がみられた。また、「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」と肯定的に答えた生徒は、国語・数学・理科の正答率が高かったことから、児童生徒にとって授業が「わかる」「できる」「楽しい」と感じ、学習したことが生活に役立つことを実感できるような授業展開を大切にしていくことが重要である。
- ・家庭での学習時間は、中学校で全国平均と比べて高く、家庭学習の習慣化ができていと考えられる。また、正答率との相関関係もみられることから、今後も、授業で学んだ内容と家庭学習とのつながりを意識し、指導と評価を充実させていく必要がある。

《生活習慣・自尊感情等に関すること》

- ・朝食の摂取率は、小・中ともに全国平均よりも高く、小・中学校で、「日出町アクションプランの達成指標85%」を上回っている。今後も基本的な生活習慣の確立のために「10（11）－7－1運動」の推進をすすめていく。※午後10時（中学生は11時）までに寝て、午前7時までに起き、1日1回目の食事（朝ご飯）をしっかりと食べようという日出町での運動。
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに対し、肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均と比べて高かった。今後も、学校の教育活動全体の中で、支持的風土ある学級づくりを行い、よりよい人間関係や授業規律の構築をめざした取組を充実させる必要がある。また、生徒指導の3機能を意識した授業の工夫を進め、児童生徒一人一人の学習状況を把握しながら、全員が有用感・成就感を実感できる授業の実現を目指していくことが重要である。

【 日 出 町 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

- 「調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか」に対し、全ての学校が肯定的な回答をしている。各教科等の特質に応じ、言語活動の充実について、学校全体として取組を進めることができている。
- 「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか」に対しては、すべての学校で肯定的な回答となっており、児童や地域の実態に合った特色ある教育課程の編成・実施ができていると言える。
- 「児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、ICT 機器をどの程度使用させているか」「児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか」の質問について、肯定的に答えた学校は県平均・全国平均より少ない。ICT 機器の活用について、児童の使用 방법에課題がみられる。
- 「前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか」の質問について、県・全国に比べると肯定率が低い。

中学校：学校質問紙

全国平均と比較して特徴的な項目

- 「調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか」について、両校とも「そう思う」と肯定的な回答となっている。生徒それぞれのよさを生かしながら、異なる視点から考えたり、話し合ったりできるような学習課題や活動の工夫の取組を進めることができている。
- 「生徒一人一人に配備された PC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか」の質問について、肯定的回答が県平均・全国平均と比べ少ない。
- 「地域学校協働活動の仕組みを生かして、保護者や地域住民との協働による活動を行いましたか」について肯定的に答えた学校は、県平均・全国平均より少ない。

2 日出町の学校質問紙調査の結果をふまえて

- ・各教科のワーキンググループ会議で、各種学力調査に関する分析と対策を行うとともに、「町内全体で取り組みやすく、効果的」な授業改善の方法等を考え、学力向上推進委員会で提案する。学力向上推進委員会で、各校の学力向上に係る取組状況の交流や町全体の抱える課題解決の方策等の協議を行い、町内全体で取組を進めていく。
- ・ICT 機器の活用については、一人一台端末の児童生徒の使用法について、昨年度に引き続き課題がみられる。町としての ICT 指針を示し、実践交流や研修の機会を設け、効果的活用・日常的使用について更に推進していく。
- ・一昨年度より、校種を超えた校内研究会授業や公開授業への参加など、小中連携の取組の充実をすすめてきたが、質問紙調査より研究や研修等の合同実施、教育課程の接続等についての課題が今年度も見られた。小学校の授業実践や中学校の学習規律の共有、ICT 活用状況の共有を行い、子どもたちの学びを持続させ、9年間を見通した学力の定着を図るための取組を今後も進めていく。
- ・各校の学力向上会議や、日出町学力向上推進委員会等で、今回、質問紙調査で挙げた課題について共通理解を図り、小・中学校の取組に関する意見交流を行い、授業改善等の取組を連携して進める。